



コミュニティ・スクール通信 Vol. 3



上山中学校ホームページ

今号では、令和7年度第3、4回学校運営協議会(CS会議)の開催状況についてお知らせします。

◇令和7年度第3回学校運営協議会 令和7年8月22日(金)

「上山中学校区 小中合同学校保健委員会」に参加し、各校（鳥屋野小、上山小、上山中）の学校三師（学校医、学校歯科医、学校薬剤師）、産業医、スクールカウンセラー、地区担当保健師、PTA役員、学校職員と上山中学校の生徒代表と共に上山中学校区の児童・生徒の健康に関する情報を共有し、子ども達がより健康に学校生活を送ることができるように話し合いをしました。



協議テーマ「どうすればみんなが笑顔で過ごせる学校になるのでしょうか」

について、以下の4つの視点が提示され、グループで具体的なアイディアを出し合いました。

① 友人関係の質を高める 【自分から行動する】【相手を尊重する】 【正直な気持ちを伝えあう】【共通の体験をもつ】	② 適切な休息と気分転換の確保 【自分だけの時間を確保する】 【生活リズムを整える】【学校での工夫】
③ 信頼できる人との繋がり 【身边な大人との関係を築く】 【相談できる場所・機会を増やす】 【「助けて」と言える練習をする】	④ 安心できる居場所づくり 【学校内の居場所を増やす】 【多様な活動に参加する】 【お互いを尊重し合う】

◇令和7年度第4回学校運営協議会 令和7年10月16日(木)

(1) 開会のあいさつ 山崎 光子 会長

先日、学校が作成した「地域のみなさまへ 今年の上山中学校はこんなことに取り組んでいます」が自治会の回覧で回っていました。学校の目標、目指す姿、課題、重点事項として自己有用感を高めるための各学年の活動について書かれており、地域の方が中学校の取り組みを理解することにつながると思いました。

9月20日に開催された「かみスマ」には小さいお子さんとその保護者が多数来場されました。生徒は、この体験を通して困難を仲間と乗り越えて絆を深めたと思いますし、卒業してからも「かみスマ」を思い出して欲しいと思いました。

〔2〕校長あいさつ 桑原 通泰 校長

本校は「協調と利他」をキーワードに学校生活を進めており、各学年が総合学習で仲間と協力して誰かのために何かのために活動すること、そして地域のために何ができるか考える活動につなげて学習を深めてきました。生徒は地域の方々の支援を受けながら成長しておりますが、全国学力学習状況調査によると自己肯定感の部分が好転していない状況にあります。自己肯定感は自分を自分で評価するという難しいことで、これを上げるには自己有用感を高めることが重要です。この自己有用感を高めることはこれから課題でもあり、ますます地域の方のお力を借りする必要があると改めて思いました。

〔3〕上山中学校の現状と課題

1) 制服の見直し（桑原校長）

本校は、目指す学校像として『「安心安全」「ワクワク」を実現できる学校』を掲げています。そしてその実現のため、第二回学校運営協議会において「誰もが安心安全に過ごせる制服とはどのようなものか」について生徒と共にグループ協議しました。本会議においても委員の皆様からご意見をいただき、今後も検討を重ねていきたいと考えています。

2) 前期学校評価中間報告（伊與部教務主任）

目指す生徒像を「協調性が高く、利他的な生徒」、育成する資質・能力を「感情を表現する力・多様な視点で課題を見つける力」とし、「自己有用感」を高めるための「地域貢献活動」「ボランティア活動」の活性化を重要項目として学習活動を進めました。各学年が総合学習で地域の人や企業、環境などとの関わりを組織した探究学習を設定しました。

【1学年】地域防災学習／地域学習・上山2km 【2学年】職場体験 【3学年】かみスマ

～特に3学年の地域貢献活動では、地域の幼児や小学生とその保護者を対象としたワークショップを企画・運営し、800人以上の来校者をもてなしました。

3) 教職員の任用について（桑原校長）

教職員の年齢構成、ベテラン教諭からの技術等の継承、中堅教諭の確保、若手教諭の育成等の課題について説明がありました。

〔4〕連絡（奥山事務主任）

上中生×予算プロジェクトについて

今年度から子どもの主権者教育の観点から、生徒の目線で学校生活の充実と向上を図るために問題を発見させ、よりよい学校の実現に向けて予算を有効に活用することをねらいとしたプロジェクトを立ち上げています。今後、委員の皆様の協力を得たいと考えています。よろしくお願いします。

〔5〕閉会のあいさつ 朝倉 奏 副会長

この会場に来るまでの廊下の壁に「利他」という言葉が何個もあり、また先ほどの報告の中でも「自利利他円満」という言葉をお話しくださっていて、本当にありがたいと思っています。誰かのために何かしたいと思っているけどできない子、自分が誰かの役に立てるのだろうかと自信がもてない子、そのような子ども達も大切な存在であり、そのような生き方も認められるということを子ども達に伝えたいと思っています。